

平成 23 年度「日本ふるさと名産食品展」開催速報！

交流支援部経済交流課

2012 年（平成 24 年）2 月 1 日（水）～7 日（火）に、香港特別行政区、香港そごうコースウェイベイ店において「日本ふるさと名産食品展」を開催しました。

開催期間が春節明けにあたっていたため、客足が落ちるのではないかと心配していましたが、初日から売り切れる商品が出るほどの大盛況でした。

出展企業からも、「どんどん商品が売れていくので、最終日まで在庫が持たないかもしれない。」といった嬉しい悲鳴が上がりました。香港そごうで開催された日本関係の物産展では、過去最高の売上額を記録したとのことでした。



買い物客でにぎわいを見せる会場

全国の自治体に協力いただき、日本全国から特色のある商品が揃いました。

（15 自治体から 23 企業が出展）

■ 果物・野菜

中でも愛知県の「ゆめのか」いちご、宮崎県のかんしょ、かぼちゃ、長野県のりんご、南水梨、和歌山県のみかんなど日本の果物、野菜は非常に人気がありました。価格は多少高めであっても、試食して味に納得すると迷わず購入する方が多いのが印象的でした。

■ 麺類

秋田県の稲庭うどん、富山県の氷見うどん、岐阜県の白川郷ベーめんなど多様な麺類が出展され、会場内で味比べをして気に入った麺を購入する姿が多く見られました。百貨店の担当者によると、香港では鍋が人気のため、うどん等の麺類は近年大変人気があるそうです。会場内に設けられた富山ブラックラーメンのイートインコーナーは、当初価格が高めだったのか、なかなか人が入りませんでした。価格を下げ、販売スタッフがメニューを持ってアピールをしたところ、人が入るようになり、10 席ほどのコーナーが満席となることも多くなりました。

■ 日本独特の食材

香港人の食卓に日本食品が浸透していることを証明するように、わさび、日本酒、茎わかめ、昆布、信州サーモンなど日本独特の食材も日常の買い物の一つとして抵抗なく購入されていました。少なくとも香港そごうの顧客層にとっては、日本食品は非常に身近な存在なのではないかと感じる光景でした。

当食品展で初めて顔を合わせた企業のご担当者同士、地元香港の販売スタッフ、当協会の職員の間、次第に連帯感が生まれ、情報交換したり、各企業の商品を合わせて試食提供したりする様子が見られました。物産展に出展する意義は、他の海外進出を目指す企業とネットワークが形成できることだとおっしゃる企業のご担当者もいらっしゃいました。

当協会では、今後とも地元企業の海外展開を支援する自治体にとって有意義な事業を企画してまいりたいと考えております。「日本ふるさと名産食品展」の詳細につきましては、後日報告書にて、報告いたします。

